



報道機関各位

熊本大学

第 6 回水俣病学術資料調査研究推進室セミナーを開催します

熊本大学水俣病学術資料調査研究推進室では、来る 3 月 27 日（金）に下記の内容でセミナーを開催いたします。

ついては、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしく願いいたします。

記

日時：2015 年 3 月 27 日（金）16:30～20:00

場所：メディア演習室・熊本大学法文棟 4 階

熊本市中央区黒髪 2-40-1（黒髪北キャンパス）

内容：

1) 16:30-18:00（発表 60 分・質疑応答 30 分）

調査研究発表：下田健太郎（慶應義塾大学）

モノが、そしてモノをかたちづくる水俣の記憶

(The Dialectical Relationship between Artifacts and Memories of Minamata)

チッソ水俣工場がかつて汚染物質を直接排出した水俣湾は、熊本県の公害防止事業によって 1990 年にはその一部が埋め立てられた。再生のアピールを主眼に進められた埋立地の整備活用や政治和解を前に、水俣病問題の収束を危惧した被害者たちは、法的・経済的・医療的「救済」では癒えなかった心情を表現するための場として埋立地を捉え直してきた。なかでも被害者有志を中心として 1995 年に発足した「本願の会」のメンバーは、水俣病の「爆心地」とされる水俣湾埋立地に自らの手で彫った石像を祀り、祈りを捧げてきた。本発表では、「本願の会」メンバーによる石像製作と語りの実践を事例に、石像が彼／彼女らの記憶のあり方にどのような影響を及ぼしてきたかについて通時的な視点から考察する。とくに製作者の想起にとってモノが一定の可能性を提供したり、逆に制限するような様相を焦点化しつつ、水俣湾埋立地に立つ石像が彼／彼女らの現実 (realities) をどのようにかたちづくっているかを明らかにしたい。

2) 18:10-20:00（映画上映 100 分・議論 10 分）

映画上映進行：慶田勝彦（熊本大学）

『みなまた日記—甦る魂を訪ねて』

（土本典昭監督、2004 年、映画同人シネ・アソシエ製作、シグロ配給）

2004年に完成した本作は今回下田健太郎氏の発表において取り上げられる「本願の会」メンバーによる石像製作の過程が撮影されている。土本監督が10年近く仮編集のままにしていた映像には何が映っており、土本監督は自らが撮影した映像に何を見出したのだろうか。本作の鑑賞を通して、水俣病をめぐる記憶を視聴者各人が辿りながら、水俣病の経験や水俣病研究をどのように継承していったらよいかを語る機会としたい。

以上

～本件に関する連絡先～

本プロジェクト世話人

慶田勝彦（熊本大学文学部教授）研究室

電話：096-342-2469

メール：sabaki@gpo.kuamamoto-u.ac.jp

※不在の場合の連絡先

熊本大学文学部 牧野厚史

電話：080-5357-1961

メール：atsushi@kumamoto-u.ac.jp